

多摩区制50周年記念事業講演会「日中戦争からウクライナ戦争を考える」 ごあいさつ

メタデータ	言語: ja 出版者: 明治大学平和教育登戸研究所資料館 公開日: 2023-11-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 姫田,光義 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/0002000180

姫田 光義

登戸研究所保存の会代表世話人，中央大学名誉教授

保存の会の共同代表のひとりとしてご挨拶申し上げます。本日は多摩区 50 周年おめでとうございます。わざわざ区長にもおいでいただきましてありがとうございます。

さて，ご講演くださる山田先生，明治大学のご理解とご協力によって旧陸軍登戸研究所は，今や川崎市の歴史遺産として後世に伝えられるだけではなく，実は私は中国研究者なのですけれども，中国の旧満州ハルビンの 731 陳列館（正式名称：侵華日軍第七三一部隊罪証陳列館）にも登戸研究所資料館が明治大学の名前とともに記録され保存されているのであります。

この 731 部隊と登戸研究所との関係は山田先生のお話の中でも出てくると思いますので私は申し上げますけれども，この二つの日本軍国主義の遺物は実は現在も生きていることが最近分かりました。それは皆さんご存じでしょう。ウクライナを攻撃しているロシアが，ウクライナ軍が 731 部隊で生産された細菌を使っていると言っている。びっくりしましたね。でも語るに落ちるんですね，1945 年，日本の敗戦時に 731 部隊を接収したのは旧ソ連，すなわち今のロシアです。そのロシアが接収した細菌兵器がウクライナでおそらく使われている，ということは，そもそもがソ連時代だったことであります。この問題の話をしますと長くなりますのでやめますけれども。その登戸研究所の研究と私たち，地元の保存運動を展開しているという事実は単に日本の侵略の歴史事実を後世に伝えるというだけではなくて，今年は皆様ご存じのように日中国交正常化 50 周年，私たち実はこの日中友好の平和と友情のための合唱団の団長をしております。歌ばかり歌っておりますけれども，この両国の友情の証として，平和と友情の証として 731 記念館も存在するし，また明治大学平和教育登戸研究所資料館が存在するのです。後世に永久に繋がっていくように私は心から願っております。

しかし現状はご存じのように敵基地攻撃論が広がり残念なことが進められております。仮想敵を想定する。敵ってどこですか。敵を想定してその基地を攻撃する，準備をする，といえは当然，あちらの敵もそれに対して準備します。すなわちそれは両方で競争になるんです。そして必ず先制攻撃論というものが出てきます。プロ野球の話ではありません。先制攻撃，真珠湾攻撃，パールハーバーが再現されるのでしょうか。私は 85 歳ですけれども，21 世紀に入って，

こんなことが起こるなんて夢にも思わなかった。平和と安定が日本で憲法九条の下で、きちっと守られてきたわけです。私は先日、府中市長にお会いしまして、川崎市民ですけれども、府中のけやき合唱団の団長でもありますので、どうぞ府中に憲法九条の碑を打ち建ててくれと。東京でたった一つだけ先日、千住に憲法九条の碑が立てられました。府中市にも建ててくださいね、もしそれができれば、川崎市でも憲法を守る、憲法記念碑ができるんじゃないか。今日、多摩区にさきほどちょっとお願いしたんですけれども。川崎市でもね、憲法をしっかりと守っていきこう、そういう動きを進めていきたいなあと考えております。まさにこの明治大学、私ども保存の会、そして皆様方、共に平和と世界の友情のためにここにお集りくださり、そしてこれからもしっかりと日本の平和のために世界の平和のために、友情を固めるために頑張っていきましょう。

今日はしっかりと勉強なさって、でもゆったりとおおらかな気持ちでお帰りくださることを期待して、ご挨拶に代えます。今日はありがとうございます。

〔追記〕

本稿は、2022年10月22日（土）に対面・オンラインのハイブリッド方式で開催された多摩区制50周年記念事業講演会「日中戦争からウクライナ情勢を考える」の書き起こしに加筆・修正したものです。